

墨東病院を中心とした取組と成果(中間)

I. 墨東病院を中心としたNICU等入院児への支援と効果

取組

入院あるいは外来受診の早期から、入院児支援コーディネーターを中心とした医療チームで患者に関わることで、退院に向けた必要な支援を実施するとともに、退院後一人ひとりの児に適した養育環境の提供を行なった。

【NICU入院児支援コーディネーター等によるNICU等入院児へのサポート】

- ・スクリーニングの実施
- ・退院支援計画の作成・カンファレンスの実施
- ・院内及び地域の関係機関への連絡・調整
- ・在宅移行訓練の実施
- ・院内外関係者によるケース会議の開催と退院前後の家庭訪問の実施

【退院後のフォローアップ外来の機能充実】

- ・理学療法士の早期介入の実施

【親の交流の場の拡充】

効果

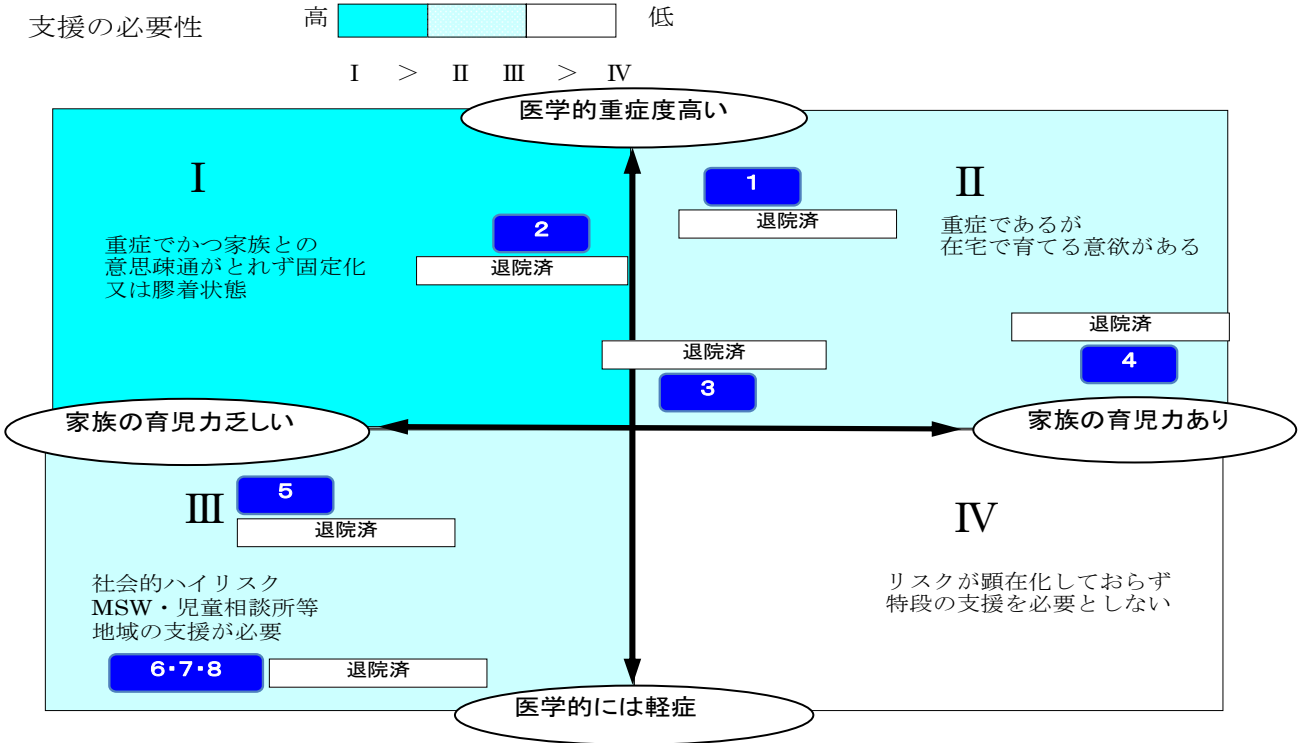
1. 在宅等への円滑な移行の実現
2. 児とその家族の安全・安心な療育生活の実現

(効果の具体例)

- (1) 外来受診の早期から妊産婦に関わり、家族の養育力評価を行なうことで、適切な社会資源を選定し、家族にサービス情報を計画的に提供するとともに、院内外における低出生体重児や障害児の出産に対する受入準備を行うことで、入院期間の短縮及び虐待の予防等、児の養育環境の改善に結びつけた。
- (2) 家族の在宅生活のイメージ形成促進と精神的支援を図ることにより、療育への精神的不安軽減を図りスムーズな退院が実現した。
- (3) 地域の関係機関による連携とサポートにより、安心した在宅介護・療育環境を提供した。
- (4) 院内(外)との連携構築が実現
 - ・院外のレスパイト対応と、小児科との連携による退院前の小児科転棟(在宅移行支援病床の運用)の実現
 - ・保健センター、療育施設職員の院内カンファレンスへの出席による協力体制の実現
 - ・重症心身障害児在宅療育支援事業、要保護児童対策地域協議会(子供家庭支援センター)の活用と連携
 - ・在宅移行シミュレーション(訓練)の実施場所と実施プログラムを整備
- (5) 平成22年度モデルケースとして選定した児の早期退院が実現(右上図参照)

平成23年6月現在、モデルケースとして選定した8ケース中について全ての児の退院が実現した。退院することが非常に困難と考えられていた2ケース(入院期間:5年、2年3ヶ月)についても在宅移行が実現した。
- (6) 病棟の在院期間減少等の定量的効果が見られた。(右表参照)
- (7) 退院後の新生児科発達外来において理学療法士(PT)を介入(毎週火曜日午後4~5人)させ、退院後の適切な発達評価・訓練等フォローの実施により、それぞれの児に相応しい成長・発達を実現した。

支援を必要とするNICU入院児のイメージ



○ 定量的比較

(単位:件)

事項	平成21年度	平成22年度	増減
1 平均在院日数(新生児科)	35.4日	30.7日	4.7日減
2 平均在院日数(産科)	16.7日	15.9日	0.8日減
3 150日以上長期入院児の数 *	11人	5人	6人減
4 周産期スクリーニング件数	—	936件	—
5 周産期支援件数	—	62件	—
6 NICU退院調整加算取得件数	—	5件	—
7 母体搬送受入件数	166件	195件	29件増
8 母体搬送断り件数	134件	100件	34件減
9 新生児搬送受入件数	105件	97件	8件減
10 新生児搬送断り件数	6件	35件	29件増
11 ケースカンファレンス(支援看護師が関わった件数)	—	50件	—

*年度末(3月末)現在の数

II. 今後の課題

1. 乳幼児の在宅医療を支える資源の不足と実務的な連携強化
 - (1) 特に医療ケアの高い児では、レスパイト、ショートステイ、往診に対応する小児科(診療所)医師、乳幼児に対応する訪問看護ステーション等の不足
 - (2) 3区(東部エリアの墨田、江東、江戸川)のケースを通じた実務的な連携
2. 在宅移行のための外泊訓練のできる設備整備
 - ・医療ケアの高い児が外泊も含めた訓練ができる院内での病床整備が必要
3. 墨東病院内でのレスパイト病床の確保
 - ・院内の中での病床確保を検討する(新生児科と小児科で検討)